

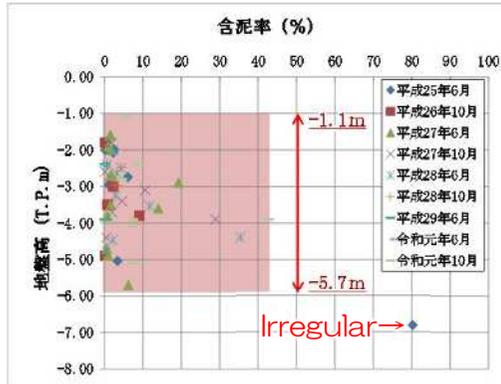
■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種のモデル化～



区分1の指標種のモデル化は、区分1が地盤高に関係なく砂質であることから、地盤高のみで生息可能場の予測を行った。

バカガイ n=58

- T.P.-5.7m~-1.1mに出現
 - 区分1に対して約88.2%の生息範囲
 - 予測した生息可能場での出現数は39地点
- ※H29.6、H30.6、H30.10は出現なし

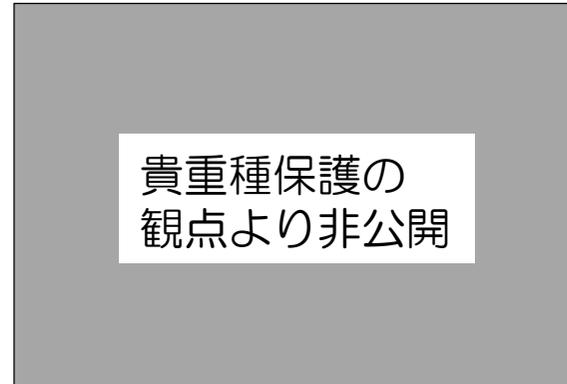
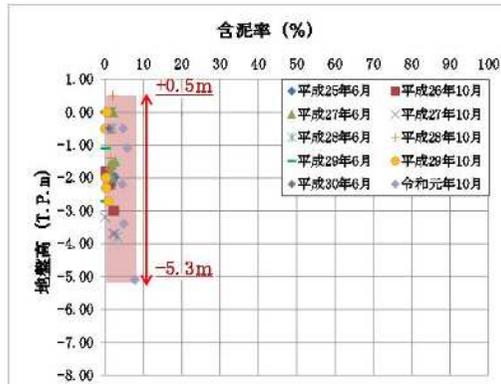


※ハビタット区分1の範囲から各種が出現した地盤高の範囲を抽出

- ①区分1の面積 : 1,837,290m²
- ②生息可能場面積 : 1,633,106m²
- ※区分1に対して88.9%

フジノハナガイ n=31

- T.P.±0.5m~-5.3mに出現
- 区分1に対して約98.3%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は29地点



- ①区分1の面積 : 1,837,290m²
- ②生息可能場面積 : 1,806,053m²
- ※区分1に対して98.3%

※注意
 ・フジノハナガイは潮間帯定量調査でも確認されており、T.P.+0.5mで1個体、T.P.±0mで79個体、T.P.-0.5mで33個体確認されている。
 ・H30.6は潮間帯調査にのみ出現し、H30.10、R1.6の調査では出現が確認されなかった。

ヒサシソコエビ科 n=74

- T.P.-5.8m~-1.1mに出現
 - 区分1に対して約93.0%の生息範囲
 - 予測した生息可能場での出現数は63地点
- ※R1.6、R1.10は出現なし



- ①区分1の面積 : 1,837,290m²
- ②生息可能場面積 : 1,707,980m²
- ※区分1に対して93.0%

